

特選「自分への欲望」

私は自分が着飾ることを「面倒だ」と感じるタイプだ。しかしかわいい物は好きである。綺麗な物も好きだ。だから都内の大学に通うようになって、私の中で渦まく「感性」という名の欲が、勝手に暴飲暴食を始めたのである。東京には、かわいい物と人があふれているからだ。

全員モデルの方だろうか、と思ったのが、大学生活一日目の感想である。ばっちり髪型をキメて、まとまりのある服装を着こなした女性達は、まさに「自分」という作品を表しているようにも、またファッション雑誌に載っている物をそのままコピーしたようにも見えた。私も四月の初めは舞い上がっていたので、雑誌を買わなくても大学に行けばファッションの勉強になると浮かれた気分で生活していた。

そうして当分は目の保養となっていた大学の環境は、しばらくしてそうではなくなった。毎日三食好きな食べものを繰り返し味わうような日々。つまり、見飽きてしまったのだ。「かわいい」があふれていると思っていたそこは、ひとたび視点を変えると「かわいい」が飽和している場所なのだと感じるようになってしまった。逆に、シンプルでさっぱりした飾り気のない女性に目が行くようになった。多分、かわいい物の中に埋もれそうな空気が妙に目を引いたのだろう。それも長くは続かなかった。

このような半年を過ごしてきて、現在またひとつ素敵だと感じる女性達がいる。飾り気のない人でも、雑誌の複写でもない。自分自身をおしゃれの一部として活かし、本当の意味で自己を表しているような彼女達のことを、「かわいい」でも「綺麗」でもなく純粋に「素敵」だと感じるようになった。同時に、尊敬の念を抱いた。自分に自信を持つというのはこういうことなのだと、見かける度に実感させられるのだ。

ファッションとは、何だろうか。私にとっては面倒極まりない概念だが、見る分にはとても考えさせられる分野である。同じ土俵に立たない私は、世の女性がどんな思いで鏡の前に立っているかなどは知り得ない。知っても、きっと理解はできないだろう。それでも私の「感性」は働き続けるので、もうしばらくは、この欲と引き続き付き合っていこうと思う。